

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200628		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム みどりの森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	平成 30年 1月 13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 30年 1月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に沿い、家庭的な雰囲気大切にしている。御利用者様の意向を大切にし利用者様本位の介護をこころがけ、スタッフと御利用者様が何でも話し合える生活の場を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれ静かな環境の中、白の木目を基調にあたたかな雰囲気が感じられる開設一年の新しいホームである。家庭的な雰囲気を大切にており、季節行事や飾り、入居者のできることを一緒に取り組むなど、個々の尊厳を考え安心して生活できるように支援されている。開設して間もないホームである為、地域との関わりを積極的に持ち、地域の一員として協力関係が築かれるように考えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼を行いその日の目標が実践できるように心がけている。出来ない時は繰り返し実践する様にしている。	朝礼時に理念について、確認したり玄関に掲示し日々実践できるように努められているが、開設し一年で職員全体の意識を付けまてには至っていない。	職員全員へ周知徹底し、目標設定を行い、実戦に繋がれるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事等がある時は教えて頂き地域の方々と一緒に見学させて頂いている。	地区で行われる浮立の見学や清掃活動等へ参加が行われ、ボランティアを受け入れる等、地域との関わりを持つ機会をつくるように努められている。	さらなる取り組みとして、利用者が地域とつながる機会をつくり、地域の方がホームへ足を運んでいただけるような取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動などの時には教えて頂き参加できるようにしており月に1回はホーム周辺の環境整備を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、出来ている。	2カ月に1回開催し、行政や介護員の参加があり、報告や相談、意見交換がなされ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等でホームでの状況を報告し又地区の民生員さんと連絡を図りホームの案内等を回覧板に入れてもらったりしている。	生活保護の利用者と行政担当者との支援の相談等積極的に協力関係が築かれるように取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉での拘束や身体拘束は行わない方針で話し合いケアを行っている。	身体拘束予防マニュアルがあり、身体拘束は行っていない。職員研修を行い、職員全体で理解を深め身体拘束をしないよう支援ができるように計画的な取組が必要。	身体拘束について、職員が正しく理解できるように、研修等の計画を行い職員全員への周知が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の朝礼でも拘束や虐待について話しており言葉使いや虐待が起こらない様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修で学んできた事を勉強会で発表し理解してもらい、資料を閲覧して頂く様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は十分な説明を行い、内容を理解して頂き契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様へも定期的に状況説明を行い、玄関に意見箱を設置している。	施設内に意見箱を設置している。面会時に必ず日常の状況報告をし、意向を聞くように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を行い問題点等を意見交換を行い反映指せている。何かあればその都度意見交換できる様にしている。	会議の際に話を聞いたり、日常業務の中で意見を聞き書きとめ、協議を行い業務に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は勉強会で発表し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の案内を出したり参加して頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様、御家族様の意向を優先した計画書を作成し支援を行っている。かかりつけのDrや看護師からの適切やアドバイスを受け安心した生活が送れる様にケアの取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に御本人様や御家族の意向や不安、困り事を聞き出し入居後も面会時や電話にて不安や困り事がないか尋ね安心して頂ける関係を保つ様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け見学に来て頂き、御本人様の状態を見極め御家族様と決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し助け合う気持ちで自立を促し家族的な暖かいケアを心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用様を共に支えあえる様に必要があれば電話をかけたたり面会や帰宅等をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会時には御利用者様の部屋・リビングにお茶や菓子を出しゆっくりと過ごして頂ける様にしている。又、希望があれば電話連絡など、支援している。	友人の面会がある時は、話しやすい環境をつくり訪問しやすく感じられるように努めている。行きつけの美容室を利用できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の交流が上手くいく様にスタッフが中に入りコミュニケーションが図れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者なし、ホームの見学に訪問され契約まで至らなかった方に、現在困り事が無いが尋ね状況を把握できる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の生活のパターンを把握し個々にあったケアが出来る様にしている。	一人ひとりの意向を聞く機会をつくり把握できるように努めている。自分で意向を伝えることが不十分な方は、家族等から情報を得たり、答えやすいように質問の仕方を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人様や御家族様より生活歴や趣味、嗜好を聞き出し、入居後も新たな情報が聞き出せる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用様の心身の状態に応じたケアが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様の訪問時に御本人様もふまえ今後のケアの在り方について話し合い要望を聞き出し介護計画書に反映させている。	担当者会議の中で話し合いが行われ、一人ひとりの介護計画が作成されている。定期的に見直しが行われて現状にそくした計画が見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議時にスタッフとの意見交換や必要時は受け持ちの担当者との意見を出し合い御利用者様本位のケアが出来る様に介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様・御家族様の状況に合わせ話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様・御家族様の意向を優先しそれぞれにあった医療機関、かかりつけ医を利用して頂き、かかりつけ医より適切な指導を受けている。	入居時、かかりつけ医について、意向を聞き適切な医療が受けられるように支援されている。現在は、往診を主とし、24時間体制で医療と連携できるように取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づき等を介護記録に残すと共に直接看護師に伝えその都度、適切な指導を受け受診出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報を提供している。定期的に訪問し御利用者様の状態の把握に努め病院側とも情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様・御家族様の希望があれば対応出来る様に医療機関と連絡取り支援出来る様に検討している。	入居時に説明を行い、重度化した場合は、その都度説明し意向の確認を行うようしている。勉強会を行い終末期に等について理解を深めるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアル作成し早急に対応できるように話し合いや実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や災害時の訓練を行い、1回は消防署や地区の消防団の立ち合いを決めている。	年2回消防署・消防団の立合いのもと消防訓練を行っている。その他の災害(原発)も行われており同敷地内の障害者施設や、特養老人福祉施設との避難協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の為に職員から秘密保持の同意書を取っている。又、毎朝の朝礼にて御利用者様が不快にならない様に言葉使いや対応の徹底のケアを心がけている。	会議の場でプライバシーについて、職員全体に周知できるように取り組まれている。言葉使いや尊厳については、朝礼時に確認し、その都度業務の振り返りをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方でも理解が出来る様に説明を行い納得され自己決定が出来る様に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが御本人様の希望を優先し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の希望に沿い行きつけの美容室や理美容車を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけが出来る対象者は居ないが座ったままでも出来るテーブル拭き等はしてもらっている。	誕生日は、その方の好みを聞き提供したり、外気を浴びて食事をする機会を作り気分転換ができるように支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分・食事量をチェックし必要な栄養が摂れる様に支援している。御利用者様の状態に応じ水分にトロミや二炊き・刻み食を提供し御家族様より御本人様の好きな食べ物を支援して頂いたり提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援、御本人様にあったケアを行い、就寝時は義歯をポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感覚のある方は立位が不安定な方でも職員の介助にてトイレに案内し座って頂き排泄つが出来る様に支援している。	排泄チェック表を作り、声掛けを工夫しトイレで排泄できるように支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に向け1日の水分量や毎朝、ヨーグルトや乳製品を提供している。それでも自然排便が困難な方に対してはDrと相談しながら緩下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はある程度決めているが御本人様の希望に沿い曜日や時間の変更はしている。	週3回入浴している。入浴を拒否される方は、無理強いせず、時間を置いたり、声掛けの工夫をして個々にそった支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様の時間や体調に合わせ御本人様のペースで休息して頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決めた場所での保管、服薬時は名前・薬の確認を行い飲み込みまで確認している。薬の変更時は個人のお薬ノート、介護記録、申し送りノートに記載しスタッフが解る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様にあつた支援を心がけ散歩やドライブ・自宅迄の帰所や気分転換が出来る様に職員と御家族で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者様の希望に沿い散歩・ドライブ・買い物等で外出できる機会を作っている。	以前住んでいた自宅周辺をドライブしたり、季節に応じて花見や海浴いへ外出する等、出かける機会をつくるように取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数の御利用者様は少額のお金を所持されており買い物に頼まれたり御自分の財布から支払されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも出来る様にしている、かけ間違いを防ぐ為に職員が電話をかけ本人様に渡す様にしている。手紙のやり取りはないが希望があれば何時でも職員が対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を活けており廊下には御利用者様が作られた絵を掛けている。室内の環境整備に努め冷暖房の温度調整も御利用者様の体調に合わせている。	季節に応じた飾り物があり、窓が広く明るい室内は清潔感があり居心地良く過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・台所にはTVやソファ・テーブル・椅子・新聞や本を置きゆっくり落ち着ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様の使い慣れたリネンや荷物を持ってきて頂いており、本人様や御家族様の希望があればTVや嗜好品等も置いて頂いている。	居室は、好み物を持ち込まれ、個々の好みの部屋が作られゆっくり居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレの手すりは御利用者様の自立を支援している。		